



栃木医療センター 広報誌

No.52 2023 January

理念
信頼 貢献 協働



Contents

- 年頭のご挨拶 1・2
- 連携医紹介（さいとう医院） 6
- 第76回 国立病院総合医学会に参加して ...3
- マイナンバーカード保険証利用案内／
交通のご案内裏表紙
- 診療科紹介（総合内科）4
- 部門紹介（栄養管理室）5



2023年 年頭のご挨拶



院長 田村 明彦

あけましておめでとうございます。2022年もいろいろなことがありましたが、無事新年を迎えられたことを皆様に感謝いたします。

新型コロナウイルスについては、患者数は増えたものの重症患者が減ってきて、イベントも感染の谷間から徐々に再開となりました。宮祭りが直前に中止になったのは残念でしたが、ジャパンカップは3年ぶりに開催されました。数年で完全に収束するとは考えられないので、共存に向けて体制を整えて行くこととなります。医療機関や行政の連携が良好になったのはよいことだと思っています。

感染のピーク時には、一般診療、救急、コロナ対応の両立は困難となり、スタッフに濃厚接触者ができるとさらに状況は厳しくなります。当院としては改善に努めておりますが、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

院内の体制としては、昨年7月より一病棟を地域包括ケア病棟として運営することになりました。自院、他施設、在宅などで入院療養が望ましい患者を対象と考えていますが、まだ検討の余地があるのでご要望があればお知らせください。

気が付けば2025年はもうすぐ過ぎて2040年問題がやってきます。2025年問題については10年以上前から様々な対策が取られてきました。年金、介護、健康保険の改革とともに、タスクシフトの導入により、医療分野の人材不足を軽減できるようになりました。地域包括ケアも高齢者を地域で効率的に支える仕組みです。これらの成果により2025年は大きな混乱なく過ぎるような気がします。

2040年に向けてさらなる少子高齢化社会がやってきて、医師の働き方改革も本格化するので、長期的視野で地域医療を考え体制を整えて行きたいと思います。卯年は上向いて回復する年といわれます。コロナの混乱からできるだけ早く回復して行きたいと思います。本年もよろしくお願いいたします。

日本医療マネジメント学会栃木支部学術集会

10月22日（土）に芳賀赤十字病院主催で日本医療マネジメント学会—第21回栃木支部学術集会—が開催され、次回の—第22回栃木支部学術集会—は当院が主催となり令和5年10月14日（土）にとちぎ健康の森にて開催予定となっております。

テーマは「少子高齢化社会を支える地域医療」です。

2040年に向けて少子高齢化はさらに進みます。あと20年弱で働き盛りの皆さんの中には支える側から支えられる側に移ってゆく人も出てきます。2025年問題ではいろいろな対策が取られてきました。タスクシフト、地域包括ケアシステムは有効だったと思います。地域医療構想も今後再開となりそうです。なかなか実感はわいてきませんが、これらの対策により2年後に大変なことが起こる可能性は低くなってきました。この10年でしてきたこと、できなかったこと、有効だったことを振り返って、次の10年とその先を考えたいと思います。

皆様方の参加を心よりお待ちしております。

第22回日本医療マネジメント学会栃木支部学術集会の告知

第22回 日本医療マネジメント学会栃木支部学術集会



- テーマ：「少子高齢化時代を支える地域医療」
- 日程：令和5年10月14日（土）
- 場所：とちぎ健康の森
- 会長：国立病院機構栃木医療センター 院長 田村 明彦

第21回

日本医療マネジメント学会 栃木支部学術集会の様子



特別講演



パネルディスカッション



ポスター展示



学術集会会長 芳賀赤十字病院院長と撮影

第76回 国立病院総合医学会に参加して

毎年開催している国立病院総合医学会ですが、近年は新型コロナウイルス流行によりWEB形式で開催していましたが今年3年ぶりに熊本県熊本市にて対面式の現地開催で行われました。

●運動療法主任 安西 崇

私は今回の学会で、法改正に伴う、理学療法士教育の臨床実習受け入れ体制の変更に際し、当院理学療法部門内にワーキンググループを立ち上げ、マニュアル作成に至った経緯を発表させて頂きました。

一年かけてみんなで作り上げた内容を、国立病院総合医学会で伝えたいという気持ち一心で発表を行いました。国立病院総合医学会の良い所は症例だけでなく、新しい試みについても発表できることかと思えます。

残念ながら、ポスター発表賞はかないませんでした。今回は幸いにも発表後に他病院の理学療法士の方から、お褒めの言葉と、施設間協力の申し出を頂くことができました。また、以前の施設で、共に仕事をしたスタッフとも久しぶりに会う事ができました。他施設の方との交流もこの学会の魅力の一つかと思えます。

貴重な機会を提供していただけたリハビリ科やその他の方々に厚く御礼申し上げます。

●言語聴覚士 奥平 あかね

言語聴覚士として働き始めての学会発表となりました。普段の業務内容を整理しつつ準備期間を過ぎてきましたが、いろんな視点を持つことができ多職種との関わりも増え有意義な時間を送ることが出来たと思えます。内容は当院に入院されていた口腔がんの対象者との関わりについてを発表しました。口腔器官の運動など機能訓練だけでなく、対象者の思いをすり合わせ、その人の生活背景に合わせた在宅復帰された後の生活を見越したアセスメントがとても大切だということを再確認することができました。当院の言語聴覚士としてどのように対象者と接していくか改めて見直す良い機会になりました。今回の発表を活かし、自身の仕事内容を振り返りながら今後も関わっていく対象者やスタッフへ還元していきたいと思えます。

●一般作業療法主任 稲川 浩充

今回、約3年振りに現地開催となり参加者の顔触れもweb会議などを通して、交流してきた交友もあり、直接意見交換が出来ることの大切や実感が持てることで自信に繋がる感覚も得られる機会となりました。発表内容は当院の職場内における後輩育成へのコーチング方法を題材にして、人材を育成していく中での課題やそれぞれが抱えている問題点などを整理し、発表を通して他施設からの意見も伺い、良い情報交換の場を持てることが出来ました。外部への発信を行える事で自分自身の確認作業や国立病院機構の仲間同士による横の繋がりが持てることで組織全体がより良い環境に整えられていくことが出来ればと思いました。今後も外部への発信機会を通して、日々の臨床業務や自分自身の専門分野における知識を深め、より一層診療の質が高められるように自己研鑽を積み重ねていきたいと感じました。今年は熊本県で開催され、風土や土地柄の雰囲気も普段、感じる事の出来ない自然観を得られ、コロナ禍中でありましたが感染対策等を講じて、沢山のの方々からの支援や協力などがあり、このような機会を提供して頂くことが出来ました。本当に有難うございました。



診療科

紹介

総合内科

内科医長 矢吹 拓

当科の取り組み

栃木医療センターの内科では、総合内科・循環器科・消化器科の3つの診療科が協力して内科診療を行っています。総合内科は内科や総合診療を専門とした医師が、プライマリ・ケア医として外来や救急での初期対応や診断を担いつつ、肺炎や心不全、脳卒中などの頻度の多い疾患に対する入院診療を行っています。また、院内に専門診療科が在籍していない疾患領域については、重症度や専門性を考慮しながら、他診療科や近隣の医療機関と連携しながら適切な医療が提供するための調整も行っています。ここ数年は感染症指定医療機関としてCOVID-19診療にも力を注いできました。

総合内科には後期研修医も複数所属しており、指導医からの指導を受けながら研鑽を重ねています。当科に所属する後期研修医は、内科もしくは総合診療を専攻しており、一般的な健康問題に対する診療、根拠に基づく医療の実践、医学的問題だけでなく心理・社会的な背景も含めて患者を理解し患者中心の医療やケアを実践することなどを学んでいます。まだまだ成長過程ではありますが、温かい目で見守っていただけますと幸いです。

2022年7月からは地域包括ケア病棟も開棟し、総合診療医が中核を担っています。地域包括ケア病棟は、急性期治療を経て病状が安定してきている患者さんに対して、自宅や介護施設等への復帰支援に向けたサポートを行う病棟です。高齢化が進み、介護療養体制の多様化が進む中で、リハビリや在宅サービス調整など多職種での多様できめ細やかな退院支援が必要になっています。「“帰りたい”を実現するチーム」として、病院から自宅や施設などに復帰する際に、十分な準備や調整を行って復帰できるように支援していきます。また、せん妄やポリファーマシー対策、リハビリや意思決定支援、在宅連携などにも取り組んでいます。

病院内で診療科横断的な働きができる総合内科の強みを活かしつつ、なお一層の努力を重ね地域の皆様のお役に立てるよう努力していきたいと思えます。



栄養管理室のご紹介

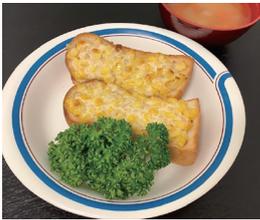
当院の栄養管理室職員は、栄養管理室長1名、主任栄養士3名、係員栄養士1名、調理師長1名、調理師1名の計7名です。日々の食事については委託給食会社のスタッフと協力し、安全で美味しく個人に合った食事が提供できるよう取り組んでいます。

仕事内容

(病院の食事)

食事が楽しみになるような行事食の提供や、特別な制限がない方を対象に平日は毎日特別メニューを実施しています。

また、食欲がない患者さんには管理栄養士が病棟訪問して直接お話を伺い、少しでも食事を食べることができるよう調整しています。



(栄養食事指導)

入院・外来通院の患者さんを対象に栄養食事指導を行っています。生活習慣の治療は食事が基本であり、食生活の改善が疾患の治療に大きく関係します。患者さんが長期的に実践できるような食事療法についてご提案しています。

栄養食事指導を希望される方は、主治医にお申し出ください。

当院に通院されていなくても、地域連携を通して地域の病院に通院されている方の栄養食事指導も行っておりますので、お気軽にお問い合わせください。

(栄養管理・チーム医療)

入院患者さんを対象に一人一人の病状に合わせた栄養管理を行っています。患者さんの栄養状態を確認して評価し、治療や早期回復を支える栄養管理計画を作成しています。そして、食事内容が適切か、食事摂取量は十分かなど定期的に確認しています。

栄養管理は様々な職種と共同したチーム医療として携わっていることも多く、栄養サポートチーム (NST)、口腔ケア・摂食嚥下サポートチーム、褥瘡ケアチーム、せん妄認知症ケアチーム、緩和ケアチームがあります。主に低栄養や食欲低下の患者さんを中心に食事の調整・栄養投与量の確認等を行っています。また、生活習慣病診療チームでは、各職種がそれぞれの専門の立場から、患者さんに説明を行っています。



栄養管理室はチーム医療の一翼を担う部門として、栄養改善できるような食事の提供と栄養食事指導の実践を通して治療へ貢献することを目指しています。これからも患者さんのお力になれるよう努力していきたいと思っていますので、栃木医療センター栄養管理室をよろしくお願いいたします。

連携医紹介

さいとう医院

院長 齋藤 公司

さいとう医院は、鶴田駅から北に徒歩13分程度の住宅街に立地しております。1990年に開設し、私が内分泌指導医であったことから、甲状腺疾患、糖尿病、脂質代謝異常、脳下垂体疾患などの内分泌代謝疾患を中心に、幼児から高齢者まで幅広い診療を行っております。小さな頃から通ってくれていたお子さんが成人となり、そのお子さんを連れてきてくれるなど、3世代に渡り通ってくださっているご家庭もあり、月日が経つを感じながらこの地域で長く診療が出来ることに感謝をしております。また、2017年まで以前の所属先である自治医科大学内分泌代謝科の非常勤講師として毎年医学生の講義を担当し、医学教育にも携わっておりました。

2017年に内科医である娘の関 香織が加わり、現在医師2名体制での診療を行っております。以前は群馬大学旧第一内科・病態制御内科学に所属し、内分泌代謝・消化器・肝胆膵・呼吸器・アレルギーといった幅広い領域を学び、関連病院において循環器疾患や小児患者への対応も行っていた経験を生かして診療を行っております。専門は呼吸器・アレルギー分野です。アレルギー疾患は問診と症状の確認が非常に重要であり、血液検査のみでは診断できないことも多く、結果の解釈の仕方やそれにより分かること、日常生活における対処法などを丁寧に説明しています。

現在は、開院後30年以上経つ限られた設備で、十分な感染症対策を行いながら安全な医療をどのように提供していくかを日々模索しております。地域のかかりつけ医として、より良い診療体制を構築し、患者さんに安心して受診して頂けるように、娘と協力し知識を補い合いながら日々の診療を行っております。

当院のモットーは、病気だけを診るのではなく、症状のある「人」、困っている「人」を診るとしており、全スタッフで意識しながら実践しております。具体的には、患者さんの生活環境や価値観を理解し、日常生活においてご自身で、またはご家族のサポートの下で出来ること、出来ない事を確認しながら、どのように病気と付き合っていくかを一緒に考え、分かりやすく説明するように心掛けています。また、患者さんの症状や状態に応じて迅速に判断し、高次医療機関や適切な専門科へ紹介させて頂いております。

栃木医療センターさんには、当院の設備では対応困難な場合や、緊急対応が必要と思われる患者さんの受け入れをして頂き、大変感謝しております。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。



ご案内

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00 ~ 12:30 (土曜日のみ 9:00 ~ 13:00)	●	●	●	●	●	●	—
14:30 ~ 17:30	●	●	—	●	●	—	—

休診日：日曜日、祝祭日

※水曜日は、現在はワクチン接種のみで一般診療はなし

※第3土曜日は休診の可能性あり



〒320-0851 宇都宮市鶴田町268-5 TEL 028-647-1001 FAX 028-647-1002

“マイナンバーカード”を健康保険証の代わりに使用できます！

2021年10月21日より、栃木医療センターでは健康保険証の代わりにマイナンバーカードで保険資格の確認ができるようになりました（「マイナ受付」）。

マイナンバーカードを健康保険証の代わりに利用すると、次のようなメリットがあります。

- ①就職や転職で健康保険証が変わっても引き続きマイナンバーカードを健康保険証として使用することができます。
- ②[マイナポータル]（ウェブサイト、アプリ）からご自身の特定健診情報や薬剤情報、医療費を見ることができます。
- ③[マイナポータル]から医療費控除の手続きを行うことができます。

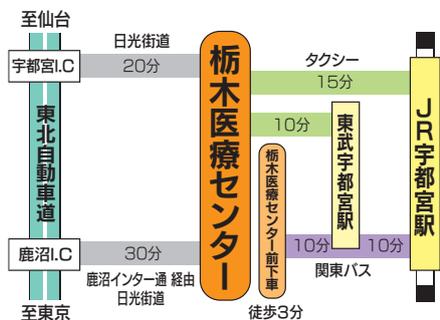


※マイナンバーカードを健康保険証の代わりに使う場合は、事前に利用登録をする必要があります。スマートフォンやパソコン（ICカードリーダーが必要になります）で登録していただくほか、当院のオンライン資格確認端末（写真）でも登録することができます。利用登録をご希望の方は、マイナンバーカードと暗証番号（数字4桁）をご用意のうえ、最寄りのオンライン資格確認端末設置窓口までお申し出ください。

スマートフォンやウェブサイトからの利用登録手続きについては、[マイナポータル]（ウェブサイト）をご覧ください。

https://myna.go.jp/html/hokenshoriyu_top.html

交通のご案内



発行人

独立行政法人国立病院機構

栃木医療センター

院長 田村 明彦

〒320-8580

栃木県宇都宮市中戸祭1-10-37

TEL. 028-622-5241

FAX. 028-625-2718

URL. <https://tochigi.hosp.go.jp/>

